

パソコン教室の窓から(78)

NPO 法人コミュニティNET ひたち(Cnet) 久保 裕

## 令和7年の年賀状

昨年の年賀状の絵は干支の辰にちなんで、日光東照宮陽明門の天井絵「昇り竜」狩野探幽画を謹写してプリントしました。「竜が現れると何かおめでたいことが起きる」という故事の通り、幸い昨年5月には、Cnetの事務所とパソコン教室を、多賀図書館のある教育会館4階に移す事が出来ました。また6月には日本生命財団から「生き生き活動顕彰」の表彰を受ける事ができました。更に9月には、内閣府の「エイジレス・ライフ社会参加章」の団体として表彰状と盾が授与されました。

今年の干支は巳(へび)です。弁才天の縁日が干支で巳(へび)の日とされています。弁才天は七福神のひとつの神で、人々に智慧、長寿、富を与える神とされています。弁才天の社には、とぐろを巻いた蛇が祀られています。蛇のとぐろを巻いた姿は、なかなか年賀状の絵に相応しいというか、可愛らしいものが無いので、仏画の中に描かれているものを捜していました。



昨年4月に奈良国立博物館で開催された「空海生誕1250年記念特別展」で出版された『空海 密教のルーツとマンダラ世界』冊子の中に、蛇を手に巻き付けた明王の絵を見つけました。京都の醍醐寺に所蔵されている五大明王の一つ軍荼利明王の手に蛇が巻き付いている一幅の絵がありました。

明王は菩薩の下の位にいます。菩薩が人々に慈悲と恵みを与え、明王は菩薩のその慈愛も役に立たない自制心のない墮落していく者に、コラッと怒鳴りつけ、人間にハッと気づかせる役割を持つ、ブッダからの使者といわれています。五大明王は、寺院の中央、東、南、西、北の五方に置かれ、軍荼利明王は南に置かれています。八つの手にそれぞれ一匹の蛇が巻き付いています。

脱皮をする蛇は、「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。また、蛇が祀られている弁才天は、蓄財・芸能の女神「弁財天」ともいわれます。上の絵は、醍醐寺所蔵の絵の一部を色紙大の和紙に写したものです。令和7年の年賀状にプリントしました。

そして今、私は、趣味の写仏画教室で、醍醐寺所蔵の五大明王の一つで、西方に置かれる大威徳明王が、水牛に乗る絵を謹写しています。

Cnetは、昨年は新しい事務所に移転しました。今年の巳年は「復活と再生」を意味しますので、今までの実績をベースにして、新しいことが始まる年になることでしょう。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年としたいですね。